

現設計に対する検証結果が 報告されました

新庁舎及び(仮称)新福祉会館建設事業

今年6月に開催された令和5年第2回市議会定例会において、現設計の検証を実施する予算を盛り込む修正案が可決されたことを踏まえ、コストダウン等の観点から8月末日を期限として検証が実施されました。

その後、第3回市議会定例会において、市長から、設計のやりなおしによる効果は見えなかったとの検証結果(右表)の報告と、それを踏まえた本事業の再開方針が下記のとおり示されました。

検証結果を踏まえての市の再開方針

- (1) (仮称)新福祉会館先行竣工に伴う課題解消のため、新庁舎と(仮称)新福祉会館の同時竣工(検証結果④)のみ設計に反映させる。
- (2) 広場(検証結果⑨)については、拡大が可能か、詳細検討する。

検証結果及び市の再開方針に対する市議会各会派の見解を下欄に掲載しましたので御一読願います。

検証結果(概要)

	概要	設計期間(か月)	設計費用(億円)	工期「福祉会館/庁舎」(か月)	工事費増減(億円)	設計費用と工事費増減の合計額(億円)
①	総耐震+地下駐車場廃止+立体駐車場	15	2.3	20/26	-3.7	-1.4
②	総免震化	18	2.2	27/29	+3.0	+5.2
③	地下駐車場廃止+立体駐車場	18	1.7	22/27	+3.1	+4.8
④	同時竣工時の影響	1	0.1	29/29	-0.1	+0.0
⑤	外壁仕様変更	6	0.5	22/31	-0.1	+0.4
⑥	庁舎西側階段の削減	4	0.4	22/29	-0.1	+0.3
⑦	議場の上部カット	9	0.5	22/29	-0.1	+0.4
⑧	庁舎北面3階以上段状形状見直し	18	2.1	22/29	-2.7	-0.6
⑨-1	広場の再検討(地上駐車場縮小+立体駐車場)	4	0.3	22/29	+4.5	+4.8
⑨-2	広場の再検討(地上駐車場縮小①)	4	0.3	22/29	-0.0	+0.3
⑨-3	広場の再検討(地上駐車場縮小②)	4	0.3	22/29	-0.0	+0.3
⑨-4	広場の再検討(駐輪場縮小①)	4	0.3	22/29	-0.2	+0.1
⑨-5	広場の再検討(駐輪場縮小②)	4	0.3	22/29	-0.2	+0.1

自由民主党・信頼の小金井

庁舎等建設費のコストダウンを図ることを目的とした検証で最も効果が出ると思われたのが、地下駐車場をなくし、庁舎も福祉会館も耐震構造にするという方法だった。しかし、検証の結果、これにより3.7億円の削減効果が見込まれるものの、設計のやり直しに2.3億円がかかることになり、差し引き1.4億円しかコストダウンにならないことがわかった。しかも、設計のやり直しで約1年工事着工が遅れることになる。ここしばらく建設業界は資材高騰が続いており、この1年で1億円高騰することになれば実質コストダウンがほぼ0で、時間だけが長引いたこととなり、あまり意味のないことになる。

結局、この局面では実施設計のまま進めるか、それとも設計のやり直しをするかという選択をせざるを得ないが、この選択こそ、市政の最高責任者である市長が判断すべきことであり、白井市長の責任で行うべきである。昨年の協議の時に持った意見は、実際に検証しなければ先に進めないと考えていたので、まとめを作る前に辞職し、1年間止まってしまったことに関し、西岡前市長の責任は重い。

日本共産党小金井市議団

新庁舎等建設の設計の検証が行われたことは意義があったと考えるが、そのまま実施設計を再開することには問題がある。検証の結果、現設計ではコストダウンが望めず、市民生活に影響を与えないために現設計を見直し、思い切ったコストダウンを行う必要がある。

市民説明会を行わないうちに実施設計の予算を再開することは可決された決議にも反する。市民説明会は新たな予算措置をしなくても実施できる。

日本共産党が他会派と共同で組替え案を提案したように、1万人アンケートなどを行い、市民に現設計の是非を含めて意見を聞くべきである。

また、「見直し案」は建設費で23億円、ライフサイクルコストは70年間で117億円ものコストダウンになると試算されており、比較検証を行うことが必要である。

生活者ネットワーク

現設計を基本とし、可能な限りの早期建設を目指すよう求めてきた。議会が求めた検証の結果コストカットの困難さが明確になり、理解が進んだと言える。今後は必要な駐車台数を精査し、使い方を広場について検討を重ね、議会での合意形成に努めていきたい。

みらいのこがねい

現本庁舎の耐震不足等の老朽化やエレベーターがないバリアブルな状況、非効率な分散庁舎、市民利用や福祉の拠点となる福祉会館機能の早期回復、30年にわたる第二庁舎ビルの賃借料は75億円を超え、さらには建築資材の高騰など1日も早く結論を出すべき課題であり、市長提案の本事業再開予算に賛成したが、約600万円を増額した上に2か月の延伸となる議員提案に対しては、市民の利便性や必要な機能を低下させず大幅なコスト減の確実な担保の確認がないこと、提案議員の考えが全く異なることなどから反対した。検証結果は、西岡前市長時代から答弁されていた「床面積の削減なしに大幅なコスト減は困難である」ことが数値化され立証されるに留まり、まさに我が会派が予め指摘したとおりの結果となったが、可視化されたことにより共通の理解になったことは歓迎したい。本結果を受け示された市の再開方針①新庁舎と(仮称)新福祉会館の同時竣工、②広場の再検討を仕上げの実施設計で行うことは、本来の検証目的であったコスト減に資するものではないが、現実的で妥当な判断と評価し、この方針に従い本事業を再開することを支持する。

小金井市議会公明党

我々は、他の施策に影響の出ない財政の見直しを示して、早期に決着をつけるよう要望してきた。6月に白井市長が示した再開予算とともに示された設計案は、検討を中断していたものであった。結果、コスト削減を懸念する公明党を始めとする4会派による修正案が可決され、8月末までコストダウンに関する検証が実施された。市長も意味のある検証であったと発言をされていたとおりだが、9月に報告された結果では残念ながら最も効果が期待されていた案(総耐震化及び地下駐車場廃止)についても十分な財政効果が得られないことがわかった。それらの結果を受け止め、我が会派は「現設計を基に事業を速やかに再開すべき」と判断するに至った。10月から始まる市民説明会においては、財政見直しを含め市民に丁寧に説明を行い、今後事業が滞ることがないように強く要望する。

緑・つながる小金井

現設計での大幅コストダウンは難しいと判断し、検証に反対したが、13人の議員はこれを必要とした。8月末に検証結果が出て、大幅なコストダウンは難しいことが数字で示された。今の小金井市が庁舎建設を進めるために、数値化する作業は必要な手続であった。

子どもの権利を守る会

検証の結果、現設計を前提にした場合、大幅なコストダウンは不可能であることが判明した。資材高騰の中、建築コストは異様に膨れ上がっており、大幅なコストダウンを可能にするための抜本的な設計の見直しが急務である。私どもは、①執務面積は減らさず、地下駐車場等をやめることで床面積を2000㎡削減し、建築費及びライフサイクルコストを大幅に削減する、②現設計では840㎡しかない広場の面積を3000㎡にまで広げる、③現設計は庁舎部分と福祉会館部分の耐震構造が異なるが、これを同一なものとしシンプルな構造とする、④年間40日程度しか議会利用がない議場スペースは、市民利用などの多目的利用がしやすいよう、イス、机、設備等を可動式にするなどを見直しのポイントとして提案している。

なお、問題の多い現設計のまま進めるのか、見直すのかについては、費用負担者である市民の意向を丁寧に確認する必要がある。現在の庁舎建設予定地に建てるか、駅前建てるかに関しては、市民1万人意向調査が実施され、大差で駅前は否定された経緯がある。市民参加条例を踏まえ、意向調査を実施すべきである。

小金井をおもしろくする会

現設計は、市民参加や議会の議決という民主的プロセスを経てきた。想定している建築単価も他市と比較して妥当だ。新庁舎及び新福祉会館建設が進むことにより、跡地活用を含むまちづくりや、今後の市民福祉の増進に大いに寄与する。後戻りは許されない。

参政党小金井

「抜本的見直しを含めた協議」による検証の結果、大きく減額できる設計変更案はないとの結論により、市長はほぼ現設計で進める結論を出した。元々増額となる変更項目を含んでおり、議会がコストダウンを求めないのであれば、検証の必要性はなかったと言える。

街の仲間たち

今定例会で新庁舎等建設実施設計委託について年度をまたぐための手続(債務負担行為)を設定する補正予算が賛成多数で可決されたことで、長年の課題であった新庁舎建設がようやく前に進む。山積する課題をひとつずつ解決していくための大きな一歩である。



横断幕を作りました

市民のみなさんに市議会をより身近に感じていただくための広報改革の一貫として、令和5年第3回市議会定例会から第二庁舎北駐車場の南側フェンスに張り出しました。今後、市議会定例会の開会中に張り出していきます。

原稿は議員が作成しています

次の定例会は令和5年11月30日(木)開会予定です。